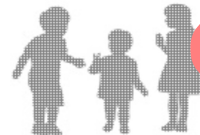


生長の家神の国寮だより

光の泉

the spring of light



第 16 号

30年度 春号

公益財団法人 生長の家社会事業団
 児童養護施設 生長の家神の国寮
 〒186-0003
 東京都国立市富士見台2-39-1
 tel 042-572-8770
 fax 042-573-9205
<http://www.kamino92.or.jp/>



合格報告に来たA君

たのです。

「A君の才能は、お母さんからの贈り物だと思えます。母親が残してくれたスケッチブックを見たらわかります！」担当職員の見立て通り、天分は開花して、第一志望の東京造形大学造形学部アニメーション専攻に合格しました。

◇「自分の強みを生かしたらいいよ！」◇

創設者谷口雅春先生は「すべての人間には天分がある、天分のところへ進め」と次のように諭されました。

◇子供に宿る「天分」を信じて 認めて引き出す◇

それぞれの子供には子供の天分があり、使命がある。子供自身は子供の内部生命から顕てくるころの、何というか―内からなる催しもよおがある。その内からなる催しもよおが止むに止まらない力をもって押し出すように”催もよおしてくる”、そこにこそ、神様から与えられたところの本当の自分の使命というものがあられるわけがあります。（『子供と母の本』）

1歳半から施設での生活を余儀なくされたA君。しかし、彼は亡くなったお母さんから受け継いだ「美術の天分」を「内からの催し」のまにまに発揮し、「芸術家になる！」という「大いなる夢」に向かって前進しているのです。

その「天分・使命」を認めて引き出すことこそ、子どもに寄り添い日々の生活の支援をする私たち施設職員の使命であり、少しでもその一端を担うことができらるなら、これに勝る喜びはありません。平成30年度を迎えるにあたり、改めて「子どもたちの夢」を実現させてあげることのできる生長の家神の国寮を創っていくことを決意しております。何卒新年度も皆様の益々のご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

「子どもの夢」を 実現させてあげたい！

生長の家神の国寮

施設長 國弘昭義

年度末を迎え、今年も多くの方々から様々なご支援を賜りましたこと、衷心より感謝申し上げます。とりわけ、今年も大学・専門学校進学者にサポート・ペアルントの皆様からの進学支援金を拠出させていただきましたことを謹んでご報告させていただきます。進学の道を諦めることなく進むことができる幸せをかみしめる子ども達に代わり、心より御礼申し上げます。本当に本当にありがとうございます。

◇東京藝術大学大学院に合格したA君◇

そんな卒業生を送る「巣立ちの会」を控えた3月1日、嬉しい嬉しい報告がありました！

4年前に卒業したA君が、念願叶って東京藝術大学大学院映像研究科アニメーションコースに合格したのです。

三つ子の長男として誕生したA君は、一歳半でお母さんが亡くなり、都内の乳児院、児童養護施設を経て、中学2年時に生長の家神の国寮のグループホーム「樺の家」に入所してきました。

辛く寂しい想いを重ねた幼少期・・・それでもアニメや絵を書くことが好きだった彼は、入所以来、イラスト・アニメ・パラパラ漫画・ピタゴラススイッチ等を楽しく、次々に創作していきます。その集中力の高さに周囲は驚かされました。そんな彼に寄り添い、彼の才能を認め、日々の生活を支えてくれたのが担当職員をはじめとする多くの職員でした。お母さんのお墓参り、他施設にいる弟たちとのキャンプ等を通じた交流、熱心な進学指導・・・さらに、大学進学資金の調達に、卒業後の生活設計にと奔走してくれました。それらが結実して、「芸術家になる！」という夢への挑戦が始まっ

たのです。そして、卒業後の4年間を支えて下さったのは、施設退所者向けシェアハウス「てとハウス」の大神田さんでした。日本にはまだあまり馴染みのない「アートアニメーション」（短編アニメ）の世界に一心不乱に取り組むA君を励まし、いつもよき理解者として相談にのってくれた、お母さんのような存在です。町に出てスケッチに没頭する日々をともにし、イベントや音楽や映画にも一緒に行き、毎日毎日「将来像」を語り合ってくれたそうです。

「こんなに毎日いっしょに過ごす時間をもってくれた大人はいなかった」

A君の言葉が全てを物語っています。

「彼は想いの強い子！自分の強みを生かしたらいいよ！」といつも声をかけていました！」

愛深い大神田さんの言葉を支えに、大学の仲間と合宿して動画を制作したり、北海道への一人旅で感性を磨いたりしてついに「東京藝術大学大学院」の狭き門をこじ開けたのです！